

第二表

Al ₂ O ₃	98.63
Fe ₂ O ₃ as Fe ₂ O ₃	1.49
FeO	
total	100.12

第三表

Al ₂ O ₃	92.88
Fe ₂ O ₃ as Fe ₂ O ₃	4.90
FeO	
TiO ₂	trace
SiO ₂	2.06
total	99.84

試料は炭酸曹達には極めて熔融し難き故、之れを酸性硫酸曹達にて分解し、常法により鐵は

伊太利ところぐ

(終)

瀧川規一

酸化第二鐵・アルミニウムは磷酸アルミニウムとして定量せり。

猶河内國南河内郡津田村春日にても同一母岩に屬する金剛砂を採取し居れり。此の中にも銅玉は存在す。故に穴蟲及び春日は本邦に於ける銅玉の產地として數へらる可きものなり。

文献

- (1) 地質學雜誌 第三六卷(昭和四年)五三九—五四〇頁
- (2) Dana's A Textbook of Mineralogy. 4ed. p. 481

〔ヴェニス市太公宮殿〕 この宮殿は寧ろ總督宮殿と云つてよい。今宮殿の前に立つと案内者は云ふ。この宮殿は一人の建築家の天才によつて出来上つたものでなく幾世紀もかかつて多く

の天才巨匠が適當な配置を以て造り上げたものである。建築に關心をもつものには自ら明白ではないかと。然らば最初の建築家は誰であつたかと問うて、一部分參加した建築家の名を知り

得るも全體の設計者は誰であつたかを知り得ない。埠頭に面する正面及び小廣場に面する一部分は十四世紀に完成されたものであり入江に面する中央の大窓は十五世紀の初に作られ、ポルタ・デラ・カルタ(Porta della Carta)と云はるる主な入口は一四二二年に出来上つたと教へられる。ポルタ・デラ・カルタとは「紙の戸口」と云ふ義である。この名はこゝで紙が賣られ市民の請願書を書記が此處で開き讀んだから起つた。

觀覽者にとつて寧ろ興味あるは圓柱の冠石上にある彫刻である。試にアダムとイーヴが立ち並んでゐる姿を見る。材料となつた石の性質上鹽風に曝らされて石材が瘠せたものではあらうが裸體の兩人は恰も病院で病人を裸にしたやうな趣があるので却つて注意を惹く。肉付きのよい青年アダム君とイーヴ嬢を見馴れて來た漫遊客にして細心の注意を拂ふならば此處の兩人の淺ましさに驚くであらう。人生の發端に非らずして地獄の繪に見る亡者の夫婦であり人生の終末を

あらはす象徴である。次に方舟のノア君とその三人の子供の像を見る。衣服をまとうてゐる丈けに見られる。ソロモンの裁きを彫んでゐると云ふのを見る。これ丈けは落ち着いてゐると共に上品に出来てゐる。ヴェニス市の政府は罪人に對して寛大であり裁判は智慧を以て迅速に行はれることをソロモンの有名な裁判によつて象徴したものであると云ふ。宮殿の隅の高き處には大天使の像が刻まれてゐる。大天使のラファエルが商業の保護者たるトビアスを導いて居るものが一つ、戦士の保護者としての大天使のマイケルの像が一つ、政府と外交を表はす大天使ゲブリエルが一つ、合計三大天使はヴェニス市共和政體の三大特徴たる通商防禦及び外交を表はすのである。ポルタ・デル・カルタには多角形の柱があつてこれには諸種の道徳を象徴した像がある。その道徳は思慮分別が一つ。腕力が一つ。節制が一つ。博愛が一つ。これを統べるべくこれ等の像の上に正義が君臨してゐる。伊國

の通商貿易の原祖の一たる都會にとつては成程必要な道德的象徴であると思はれる。只無意味に洋服に裝飾をつけたのとは違ふ。外廊の圓柱の冠石には教育的觀念を證明する彫刻がある。或は知識によつて有名な人物、或は信仰を表はす人物、或は勇氣を代表するものなどが居り或は藝術を示すもの人生自然及び通商を象徴する彫刻が夫々あつて何れも教育的觀念を含むものである。これ等の彫刻の名工の名が傳はつてゐない。單に石工として呼ばれた丈けであつた。彼等の工作は苦みの工作に非らずして愛好の工作であつた。

彼等にとつては惱みの仕事でなくて喜びの仕事であつたので一人も名を刻み遺さなかつたとはヴェニス人の誇りの言葉である。ポルタ・デル・カルタの上には昔の彫刻があつた筈であるが一七九七年に佛軍に占據された際に破壊された。佛人は聖マルコの有翼の獅子を好まなかつたからだと云はれてゐる。今あるのは近代の作

品である。

小廣場 (Piazzetta) に面するギャラリに只二本丈け赤大理石の圓柱がある。この圓柱の間で死刑の判決が宣告された。處刑はマルコ及びドタロと云はるる二本の赤色の大圓柱の間で行はれた。後には波止に近きギャラリの圓形の入口から突出した梁にて絞刑に處したと云はれる。處刑場に四分一圓の形をした白色の石がある。この上では骰子と骨牌の勝負事が許され他の場所では許されなかつたと云はれてゐる。

「巨人の階段」と呼ばれる石段がある。登りつめた左右に海神ネプチューンと軍神マースの立像がある。巨人の階段と名づけられたのはこの立像が原因であると傳へられてゐる。作そのものは文藝復興期のものである。この階段に達するまでにフォスカリ (Foscari) のアーチと稱せられる拱門があり立像及び裝飾が澤山ある。そのうちにはリッツォ (Rizzo) の作としてヴェニス人の誇とする立像がある。イヴの立像アダム

の立像は如何にも人間らしい體格をして居り殊に女性の體格は經産婦の體格であると見ても誤であるまい。中庭の氣分に落着きがあつて氣に入つた。殊に中庭の井戸の圓い青銅の圍の意匠には無限の雅味がある。神社等の廣前にある手洗水の石鉢にこれだけの藝術の裝飾があつて欲しいと云ふ心地がする。圓い井戸側は二つある。各意匠を異にして何れも趣がよい。中庭に佇んで建物の四方の正面を眺め入る時各部分時代を異にしてゐながら全體として何の矛盾もなく調和がよくとれて居るには感心する。

建物内の室の配置圖の指示に従つて或は壁畫或は天井繪等を順覽する。澤山な繪は何れも名畫であり名畫でなくても優れた作品である。疲れたる旅客の眼には如何なる名畫を見ても餘りに多きに過ぎる時は巧拙を平均化し深く印象を遺さぬに至る憾がある。都市が一個の國家を建設しそれに共和政體を以て都市行政をなしこれを統ぶるに總督をもつてした。中世に於て伊太

利のゼノア・ヴェニス等の都會が總督を戴きこれをドーデ(Dode)と呼んだ。ヴェニスに於て建築物繪畫彫刻の説明をきく毎にこのドーデの名を一々列擧されるには些か閉口する。繪畫に於てもドーデが現はれ来る。

時には戰士の如く鎧を纏ふた老人、時には聖書を書題にした時の如く東方の學者若くは法王のやうな様子をした人があらばそれは必ずドーデ何某と云はるる史實的人物である。ドーデの姓名などは誰であらうと極東人には興味を惹かない。只繪そのものの魅力さへ味ひ得、見る價值あるものでヴェニスに來なければ實物を見得られないと云ふやうなものを觀覽し得ればよいのである。

四角形の控室の天井繪は八角の框に納まつてゐる。冠を頂いてマントらしきものを肩にひつかけて居るのはドーデであり女性らしい肉付きのよい青年は天使であり天空をかけり後光を頭に被つてゐる裸體の老人は正義の神である。體

格美の爲めか或はその他の理由によつてか自ら目を惹く。四壁の畫のうち果樹園内の基督はパオロ (Paolo Veronese) の筆であり福音のヨハネの繪はフランチェスコ・バサノ (Francesco Bassano) の筆であり天使が羊飼ひの人々に救世主を紹介せる繪はバサノの筆である。次に地上の樂園の繪がある。

「四つ戸の廣間」と呼ばれる室に入る。有名な室丈けあつて實に感じのよい美しい部屋である。チントレット (Tintoretto) の筆は天井にあり四壁には鮮かな繪がある。ドーデが聖マルコ聖マリナ聖セバスチアンに守護されて聖母の前に跪づける繪、聖母と聖マルコの繪、ヴェロナ市の征服の繪、波斯の使者がドーデに貢物を獻げてゐる繪、ヘンリ八世のヴェニス到着の繪、ニュルンベルグの使者がヴェニスの法律書を受けてゐる繪があり何れもヴェニスに關係を有する畫題である。窓の上には「老人が袋から金貨を澤山うちあけんとし一青年がその金貨を指さ

してゐる」繪がある。海神ネプチューンが寶物をヴェニスに持參せる處だと云ふ。美しき繪であるが通商の都市の第一義は黄金にありと思はしめる。

アンテ・コレツヂ (Ante-College) と云はるる室も亦裝飾を以て満たし巨匠が多く力を合せてこの室の美を完くしてゐる。マッキュリと二人のグレースの神の繪は肉付きよく性の區別のつき兼ねる肌を見せてゐる。ヨーロッパの掠奪と題する繪は一人の美婦人を多くの人々が強制的に拉し去らんとする處を描いてゐる。デユースの神にそゝのかされて白馬に乗るや白馬はデユースの命によつてクリートまで娘ヨーロッパを拉し去つたと云ふ神話である。ヴァナスとマースとがミネルヴァに押し隔てられて居る繪も美しい。アリアドネがヴァイスに冠を被せられバツカスから指輪を貰ふ繪ではバツカスの少年の顔が氣に入つた。

コレツヂ・ホールと云はるゝ部屋に入る。こ

の室にも澤山な繪がある。聖母がマルコ・バーナード・ルドヴィコ・マリナ等の諸聖徒とドーデとを従へてゐる繪、聖カザリンが基督と神秘的結婚式を擧げて居り列席者にはジョセフ・マルコ・フランシスの諸聖とドーデが居りドーデの背後には思慮と節制とが侍つてゐる繪、聖母及び諸聖の前に跪けるドーデなどの繪がある。天井には合計十七の繪がある。マースとネプチューンの繪、犠牲の下に居る信仰の繪、平和と正義とに侍せられる女神のヴェニス、幸運の神、歴山の力、簡易、歴山の犠牲、溫和、セレンコ(Seleno)の正義、信義、豊饒、カロンダ(Caronda)の確乎たる精神、注意、國の爲めに命を献げるデシアス(Decius)、勤勉と辨證法、シラ(Silla)の精神力、中庸、などと只列擧すれば煩に耐えぬやうであるが、一々點檢する時夫々妙趣がある。就中ヴェニスが平和と正義を従へ王座を占めてゐる繪、辨證家が蜘蛛の巣を仰視せる繪は本物を見得た悦を禁じ得ぬものである。

室内裝飾に見て疲れたる眼を更に疲らすものはブラガチ(Bragati)の室若くは元老院の室と云はるる部屋である。壁には二人のドーデが跪き聖母基督及び聖マルコを崇める繪には各ドーデの守護神たる聖ローレンス聖ゼロムが隨從してゐる。次にヴェニスの最初の貴族に列せられた聖ロレンツォの繪がある。その他哲學者のブトレミ、死せる基督を拜む二人のドーデ、その他四枚のドーデの繪及び平和と從順とを象徵する二枚の繪があり天井には海から眞珠、貝殻、珊瑚の海つものを海の女王ヴェニスに献げてゐるもの、ネプチューンの鍛冶場、造幣局の光景歴史家詩人等を歡迎するドーデ及び元老院議員戰士(二枚)哲學者(二枚)自由雄辨眞理勤勉がある。

その他の多くの室にある繪を一々擧ぐるには煩に耐えない。十人の會議室の主なる繪にはジュピタが四つの犯罪について雷鳴を轟かしたのを十人會議で裁判をする繪がある。十九ヶ國

會議を今日連想せしめて面白い。青年と老人の繪も皮肉であり、ヴェニスに富を降らすデユノの繪は此の市では陳腐な畫題であるが繪が美しい。

大會議室に入ると室の大なる丈け壁にも天井にも繪が多い。天井丈けで大小三十一枚ある。ヴェニスの女神を祭る繪をはじめヴェニスが自らに隸屬する他の都市から敬禮を受ける繪、ヴェニスに被征服者たる軍隊を迎へる圖、モハメットの侵入に對しドーデがスクタリの爲めに防禦戰をなす戰爭畫、アルゲンタ附近にてフェララの太公の敗戰の圖(二枚)、ポー河畔でフェララ軍と戰つて大捷を得た圖、ガリポリ奪略の圖、マキシミリアン皇帝と戰つて戦捷を得た圖、バザの奪回戰、ポー河畔にてミランの太公を破る戰の圖、ヴスコンチを破るヴェニス軍、ミラン軍に對してブレシアを守る戰鬪、ガルダ湖畔にてミラン軍を破る圖、カサルマデオレに於てミラン軍に戰つて大捷を得た圖、土其古よりス

ミルナを奪取する圖、モレアのエシモロを復興する圖、サイブラスを女王が放棄する圖、トルコ人によつてヴェニス人が鋸引きにされる繪、ガルダ湖のギヤリ船、聖コンタリニが深手を耐え忍ぶ繪、コンタリニが挑戦する繪、ニユルンベルグ市がヴェニス市の法律の教を乞ふ圖、ヴェニスにトルコ軍に援助を乞はれて拒絶する繪、ピサニの戰略、レバントの戰に負傷したバルバリゴ、東洋に於て獲得せし勝利、生きながら皮を剥がれるマルコ・アントニオ・ブラガデン (Marco Antonio Bragadin) の繪、ヴェニエル (Venier) の勇氣、ヴェニスの婦人等がキオチアの戰爭に戰地慰問品を出してゐる繪がある。戰士慰問は近代の風習の如くに思ふは誤にて既に十四世紀の昔にあつたのである。これ等何れもヴェニスに關係ある戰爭畫である。十四五世紀頃の戰鬪が如何なるものであつたかを知らんとするには面白い繪である。

戸口から右側の壁には二十枚以上の繪がある

何れも法王アレキサンダとドーデ及び皇帝フレデリック・バルバロサに關する繪であり只そのうちサルボーン(Salerno)の海戰の繪丈けが海戰圖である。奈良東大寺の三月堂にある蒙古襲來の圖を連想せしめるものがあつて興が湧く。左側の壁には十字軍の戰爭圖が八枚ある。ドーデが十字軍に出發する繪、ザラ(Zara)包圍の繪、ザラが市の鍵をドーデに送る繪、コンスタンチノープルの皇帝が信任狀をドーデに奉呈する繪、コンスタンチノープルを十字軍によつて第一回の征服をなす有名な繪、第二回の征服の繪、などがあつて十字軍の戰闘狀態を知るに好都合である。

投票室の天井繪にも戰爭畫がある。バツアの夜襲、ゼノア人がなしたカファ(Caffa)の奪取、ツラバニ(Trapani)に於けるゼノア人との戰に得た勝利、ローズ(Rhodes)に於てビサ人が敗れた海戰(一〇九八年)などがそれである。その他二十枚以上は人間の諸種の性質及び徳を象徵に

した繪である。陸戰の繪が非常に多いが海戰の圖が尠い。一般歴史に於ても陸戰は海戰よりも多い。

其他多くの室の裝飾畫を一々舉げることが出来ない。チチアンの聖クリストファの繪もこゝで見られる繪である。倫敦及び巴里に於て既に覺えのある繪が可成に多い。何れが模造であり何れが眞品であるかは専門家に委せるとしてドーデの宮殿又は太公宮殿と云はれるこの建物は建築が幾世紀の名匠によつて補修増築されながら一つの完體として何の異とする處なきに感じ、ヴァスコ・ダ・ガマの故郷に於て戰爭畫を見蒙古襲來を連想し、平和の涼風を作る扇が日本から支那に亘り支那よりヴェニスに入つて西洋扇の發達をなし、水の都に充分の風景を賞し、ムソリニ及びダンヌチオの別莊を見、沙翁の「ヴェニス市の商人」の裁判によつて市の法律の由縁を知る等極東の英文學研究者には盡させぬ名残りの都である。(終)